



観光まちづくりの推進  
について

吉野 修 (黎明21)

一般社団法人行田おもてなし観光局が本年4月から始動している。観光局は観光地経営の視点に立った観光地域づくりのかけ取り役と聞いている。

観光局が専門性を活かして実施している団体旅行促進事業やプロモーション事業等については、日頃から市と情報共有を図りながら毎月定期報告会において、団体旅行参加者数やインスタグラムフォロワー数等設定した業績評価指標の達成状況を確認した上で、評価を行っていく。今後

観光局は、観光データの収集・分析をはじめとしたマーケティングや戦略的なプロモーション、また観光物産館の運営、旅行事業の展開を担っている。

本市と観光局に何を期待するのか。

観光局には、事業者や地域の関係者、観光客に近い存在として、現場の声や感覚を活かした取組を期待している。

本市と観光局の連携はどのように図るのか。

本市と観光局の連携はどのように図るのか。

生産緑地の2022年問題について



コロナ禍における災害時の危機管理(水害避難)

細谷 美恵子 (発言と行動する会)

災害時、避難場所の選定、避難路の確保、避難所設営等にコロナ感染対策を盛り込むことは危機管理の最重要課題である。

補助避難所などを増やすべきでは。福祉避難所との連携はしているか。

避難準備計画作成を行政が後押しすべきでは。市報6月号や本年度末の防災ガイドブックで周知し、要支援者の個別避難計画を進める。

指定避難所は、すべて安全な所にあるか。

県との間で感染者の情報をもたないため、進めるのが難しい。

人員は今までの半分以下になる。ペット同行の避難者数は把握していない。駐車場については



コロナ禍の夏の子どもの居場所づくり

野本翔平 (新政策研究会)

市長の認識は。近年の気候変動は世界規模で災害が発生するほど温暖化が進み、人類にとっても危機的状況であり、子どもの居場所づくりは大変重要である。

ため、現在のところ考えていない。

市内の無料で水遊びができる施設はどこか。

じゃぶじゃぶ池を増設すべきではないか。

親水施設であるが、井戸水を使用しており、水質・衛生面に課題があるため、水遊びはできない。

その課題を解決し、水遊びができるようにすべきではないか。